

各地の報告「信太山丘陵の保全と活用 ー草地の再生をめざしてー」

文・写真 花田 茂義 (NPO法人信太の森FANクラブ)



昭和40年(1965年)頃、草原での晒し木綿干し



かつての草地も現在はササ原、どう草地に再生するか



草地再生の実験(2013年12月)

大型スポーツ施設建設計画

信太山丘陵は、和泉市北部から堺市北西部にかけてゆるやかな台地が約300ha広がっている。その大部分が、明治以降、陸軍や自衛隊の演習場として管理されてきたことから、乱開発の歯止めとなり、耕作地の存在も関わって近畿地方の低地から失われつつある里山的な自然環境を奇跡的に残してきた。特に、点在する湧水湿地と草地がこの丘陵を特色づけている。

2004年、和泉市は演習場内に点在する民有地を買収し、防衛庁(当時)と交換する手法で演習場内の約16haの用地を取得した。市は、その土地に大型スポーツ・レクリエーション施設(サッカー場、野球場、テニスコート、駐車場など)を計画していた。

予定地は、信太山丘陵を代表する湧水湿地や草地を含んでいた。もし、計画が実行されれば貴重な里山的自然環境の代表的な部分が壊滅的に破壊されることは明らかであった。

里山自然公園を求め、請願署名と誓願採択

私たちは、2008年「信太の森FANクラブ」を立ち上げ、計画の変更と自然環境の保全を求め、「信太山里山自然公園」の実現をめざして運動を展開した。2010年には「信太山に里山自然公園を求める連絡会」が結成された。市内外の有志をはじめ、自然・文化保護団体、企業、サークル、労働組合が参加し、大阪自然環境保全協会や日本野鳥の会・大阪支部も名を連ねた。

連絡会は「信太山里山自然公園化構想」を市に提言し、2011年4月から、「信太山丘陵市有地の野生生物の生態系を保全し、里山的自然環境の保全を図ること」を主旨に掲げた和泉市議会への請願署名と同主旨の市長への要望署名に取り組んだ。署名は予期した以上の反響を得て、請願署名10,368筆、市長への要望署名10,763筆を数えた。請願を受けて、和泉市議会は2011年9月、請願を採択し、開発計

画は市民の声をバックに大きく動いた。2012年6月、和泉市はスポーツ施設建設を中止し、丘陵市有地の保全と活用を図ると大きな方向転換を発表した。

検討委員会とワークショップ

2012年9月より市長の諮問機関「信太山市有地保全活用検討委員会」で審議され、2013年2月「公民協働により、里山的環境を保持し、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場として活用していく」という基本方針が答申された。その具体化を図るためのワークショップが13年9月より開催されている。

ワークショップの大きな課題の一つは丘陵を代表する草地をどう再生するかであり、目下、作業部会の市職員、市民、府立大学生などが公民協働として該当地での再生実験の取り組みなどを開始している。



各地の報告「鵜殿のヨシ原の価値を高めて生き物や文化を守りたい」

文・写真 谷岡 寿和子 (鵜殿クラブ)



写真-1 鵜殿は360度の大空



写真-2 淀川から揚水し、水路で水を広げている



写真-3 ひちりき

1. 鵜殿のヨシ原は生き物に当てにされている

「^{うどの}鵜殿のヨシ原」は淀川河川敷、大阪府高槻市域にあります。広さ75haの有数のヨシ原です。(写真-1) ヨシ原は里山と同じように人が利用し守ってきた人と関わりの深い自然です。氾濫原であり自然のかく乱や人間がヨシ刈り、採草や火入れなどの管理を行い維持されてきました。キツネや猛禽類を頂点とする生態系やノウルシなどの絶滅危惧種、カヤネズミなど草原性の動物などの貴重な住みかが大都市の中で存在するのは非常に珍しいことです。オオヨシキリやツバメなどの渡り鳥たちは鵜殿を当てにして飛んできます。電車の音も車の音も聞こえない広大な生き物たちの暮らしの場所です。

2. ヨシ原が衰退、淀川から揚水

1970年代から淀川の改修工事が進み増水時でも冠水がなくなり、現在、淀川は鵜殿の約6m下を流れています。ヨシ原は荒れヨシの面積は激減し、つる性植物が繁茂しています。国土交通省は大型ポンプで

揚水、水路に流し水環境の改善、動植物の保全を図っています。水路の効果でヨシ群落が維持されています。揚水の継続が自然環境の保全に欠かせません。(写真-2)

3. 人がヨシ原を育て、価値を高める

ヨシや草の利用は草原の維持にも大いに役立ってきました。刈って運び出した場所は陽当たりなどの条件が良くなり、絶滅危惧種、ノウルシ、トネハナヤスリなどが広範囲に広がります。良い品質のヨシやオギを育てるにも重要なことです。鵜殿ヨシ原研究所と鵜殿クラブは、調査や観察会、保全の為にヨシ刈りの他に、価値を高めることで自然や生き物を守ろうと、ヨシ紙やヨシの箸、バイオ燃料化に取り組み製品化されました。草資源の活用が自然や文化の保全につながっています。ヨシ原焼きも草原の維持には不可欠です。

4. 新たな危機、新名神高速道路

建設が着工決定
新名神高速道路の京都府八幡市～大阪府高槻市区間の建設着工が

2012年4月に決定、鵜殿の上流部を橋が横断する計画です。計画によると、この区間は、2024年3月までに開通の予定です。数基もの巨大な橋脚が鵜殿や淀川に建設されることの影響は深刻です。全体の土壌構造や地下水の流れが破壊されます。また、工事中道路造成、資材置き場でヨシ原の面積の減少が懸念されます。生態系とは全体のつながりの中で成り立っているのです。ヨシ原への影響は甚大なものとなり生き物たちは暮らしの場を失うでしょう。

5. 世界遺産・雅楽を支える鵜殿のヨシ原

雅楽の主旋律の楽器、箏(写真-3)の蘆舌(リードのこと)には鵜殿の茎が太いヨシ(厚さ約1mm、直径約12mm)が古来、最適とされ最高の生育地です。宮内庁楽部や伊勢神宮、多くの神社や仏閣、演奏会などで鵜殿のヨシが広く使われています。雅楽は世界無形文化遺産に指定されています。鵜殿のヨシは4~5mと大きく茎は太く育ちます。鵜殿の一部に箏にに適したヨシが育っていますが、その直近が高速道路建設予定地です。